ンターネットと連動した 【滋賀生活情報紙】

この情報紙は「滋賀ガイド」と提携しています www.qaido.jp

vol.538·11月6日号

毎週木曜発行 4面に プレゼント情報!

●Oh!Me編集室/株式会社ヤマプラ:近江八幡市桜宮町294 TEL0748-34-8872 FAX0748-34-8927 発行部数:100.000部 ●広告/滋賀毎日広告社:大津市打出浜3-16 TEL077-522-2603



日本美術史の常

岩佐文兵衛(1578~1650)や伊藤若冲(1716~ 1800)ら異色の画家を再評価し、「奇想絵画ブー ム」を巻き起こした美術史家の辻惟雄さん。日 本絵画は花鳥風月を優雅にめでるもの――、そ んな固定観念を打ち破る研究の成果は、人生の 中で「出合い」を楽しむ遊び心から生み出された ものだった。

MIHO MUSEUM 館長 東京大学名誉教授

医師志望から美術史家へ

辻さんは元々医者志望だったが、発疹 チフスで入院中に見た不思議な光景が 転機になった。

「窓から差し込む光線がやけに美しく、眼 前の風景がこれまでと全く違うものに見 えたのです」

美への関心が高まり、東大文学部美学 美術史学科へ進んだ。

「この体験がなければ、どこかの医大に もぐり込んで平凡な医師になり、稼いだ お金で好きな絵を買い集める人生を

送っていたかもしれませんね」

大学院での研究テーマは、江戸時代初 期の絵師・岩佐又兵衛。自分で見つけ たのではなく指導教授の勧めによるも のだったが、血みどろの絵巻に一気に のめり込んでしまったという。

「『山中常盤物語絵巻』の斬り合う武将や 転がる首など血なまぐさい描写に、しば らく弁当のおかずのシャケの切り身が喉 を通らなくなりました」

その後、東京国立文化財研究所の美術 部技官に就任。又兵衛のような絵師を 求めて研究を 進め、江戸時 代中期の絵師・ 伊藤若冲を探 し当てた。

米国人美術収集家、ジョー・プライス氏 が若冲の絵を買い集めていると聞き、 1日だけコレクションを見せてもらうこ とになった。奇抜な構図、密度の高い画 面。写実と想像とが融合した奇想の世 界に圧倒された。これを機に會我蕭首、 狩野山雪、歌川国芳など、それまで際物 扱いされてきた絵師に夢中になり、彼ら をまとめて1970年「奇想の系譜 又兵衛 一国芳」として出版。流派の系譜では なく、表現の系譜に着目した画期的な 美術史の論考だった。

日本文化の本質は「遊び」

奇想の中に日本文化の本質があると気 付いたのは40代、東北大学教授時代に オランダの歴史家・ホイジンガの「人は 遊ぶ存在である」という思想に出合って からのことだった。

「万物は単に遊びにすぎず、武士道もま た遊び心の領域の中で展開され、戦場 は武将が神の前で武勲を競い合う命が

けの遊びである」。これが日本人の「浮 世感」につながっているという。

元々、「憂き世」だったものが、江戸時代 以降は「浮世」と表現され、「人生はかり そめの夢のようなもの。せっかくだから 浮いて楽しもう(遊ぼう)」へとつながり、 遊び心で生きるのが日本文化の神髄と なったというのだ。

ユニークな出合い楽しむ

その後、歌舞伎研究家の服部幸男さん のエッセイと出合い、平安王朝文化や 桃山文化などの装飾的な美に見られる 「飾り」の概念を発表。さらに、60代、日 本文化研究センター時代には無生物を 含めて全てに霊魂が宿っているとする 考え方も発表した。

「私は受け身の人間ですが、なぜか次々 とユニークな出合いがあり、それを面白 がって楽しんだ結果がこのありさまです」 今でもUFOや面白いこと、不思議な ことが大好きで、心は少年そのもの。 人生を楽しみ尽くす「浮世を遊ぶ美術



●場所:MIHO MUSEUM

●時間:10:00~17:00(入館は16:00まで) ●料金:大人1,100円 高大生800円 小中生300円 ●休館日:月曜日(11/24は開館、11/25は休館)









「象と鯨図屛風」 伊藤若冲筆







お引き受けいたします。

お申し込み・お問い合わせは下記まで **5000120-737-215**

ムページ・携帯サイト http://kanjidaikou.com 幹事代行ドットコム滋賀 〒522-0041 滋賀県彦根市平田町808 株式会社 千成亭 笑顔創造事業部